

2023年度（令和5年度）
東海北陸ブロック

老人福祉施設研究大会

～Re:START 愛知・名古屋大会～



テーマ

コロナ禍の危機を乗り越える！

Resilience

「弾力」「回復力」「立ち直り力」心の強さ！

日程

2023
10/17 火 全体会

2023
10/18 水 分科会

会場

ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

主催

東海北陸ブロック老人福祉施設協議会
公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
一般社団法人 愛知県老人福祉施設協議会
名古屋市老人福祉施設協議会

後援

愛知県・名古屋市
社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会
社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会
社会福祉法人 富山県社会福祉協議会
社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
社会福祉法人 岐阜県社会福祉協議会
社会福祉法人 石川県社会福祉協議会
社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

愛知・名古屋大会【趣旨】

コロナ禍の危機を乗り越える！

～Resilience～

「弾力」「回復力」「立ち直り力」心の強さ！

“On CORONA”では「医療崩壊」を招き、介護現場は感染リスクと常に背中合わせにありました。

“With CORONA”では、漫然とコロナと共存するのではなく、感染対策を適切に講じつつ、社会経済活動もしっかりと進めていく社会を模索しました。

いま、“After CORONA”の時代を迎え、ワクチンや治療薬の実用化に伴い概ね“CORONA”をコントロールできるようになりつつありますが、コロナ禍で一変した生活や暮らし、介護現場をどうやって立て直していくのか“Resilience”（レジリエンス）のチカラが求められています。

私たちはこれから“Beyond CORONA”に向け、新たな介護の世界を構築していく為には、これまで我々が培った多くの経験と知識・技術を最大限に発揮し、介護現場の復元・回復に努めていかなければなりません。

これまでの介護の常識は、必ずしも常識では無くなり、これまでの習慣ややり方、施設での生活様式までも変えていく、変わっていく“Resilience”（レジリエンス）のチカラを発揮するために、ここに東海北陸6県の関係者が本研究大会に集結し、実践研究を発表し、質疑・討議により研鑽を深め、サービス、職員資質、

職場環境、地域貢献、法人経営の向上を図ることで“Resilience”（レジリエンス）のチカラを創造する研究大会を目指します。

※“Resilience”（レジリエンス）とは「弾力」「回復力」「立ち直り力」の意味。また、困難や脅威に直面している状況に対して「うまく適応できる能力」「うまく適応していく過程」「適応した結果」を意味する言葉です。

※“On CORONA”（オン・コロナ）コロナを抑え込もうと闘っている状態。

※“With CORONA”（ウィズ・コロナ）感染拡大が一旦収まり、徐々に経済活動の抑制を緩めていきながら、やがて必ず来る次の感染拡大を極力小さくする為の準備をしている段階。

※“After CORONA”（アフター・コロナ）ワクチン接種が進み、治療薬が実用化し、新型コロナウイルスを概ねコントロール下に置くことができる状態。

※“Beyond CORONA”（ビヨンド・コロナ）人類がコロナ禍を完全に乗り越えた先の時代で、いろいろなものが大きく変わっている状態。

参加対象

会員施設・事務所の役職員
老人福祉施設事業に関わる行政・社会福祉協議会関係者

参加予定人員

600名

参加費

10,000円



10/17 火 1日目 全体会

会場

ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
大ホール

愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 ☎ 052-571-6131

- 11:00-13:00 大会運営委員会【会議室】
12:00-13:00 受付【大ホール】
13:00-13:45 大会式典
◆開会の辞 ◆開催県挨拶 ◆主催者挨拶
◆来賓挨拶 ◆来賓紹介 ◆主催者紹介
◆感謝状授与
13:45-14:00 CONCEPT lecture
14:00-15:00 講演「いま！一番受けたい授業」
※キリンホールディングス株式会社による講演
15:00-15:15 休憩
15:15-16:35 講演「ケアニン～映画から観えた介護の魅力」
※「ケアニン」ショートフィルム上映
※プロデューサーによる講演
16:35-16:40 次期開催県挨拶
16:40-16:45 閉会の辞
17:10-17:40 分科会打合せ会

※参加（宿泊）申込は、
名鉄観光サービス株式会社 名古屋中央支店から案内します。

10/18 水 2日目 分科会

会場

ウインクあいち（愛知県産業労働センター）
小ホール・大会議室

愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 ☎ 052-571-6131

- 9:00-9:30 受付
9:30-9:40 幹事挨拶、進行説明
9:40-10:00 実践研究発表／質疑応答、助言
10:00-10:20 実践研究発表／質疑応答、助言
10:20-10:40 実践研究発表／質疑応答、助言
10:40-10:50 休憩
10:50-11:10 実践研究発表／質疑応答、助言
11:10-11:30 実践研究発表／質疑応答、助言
11:30-11:50 実践研究発表／質疑応答、助言
11:50-12:10 実践研究発表／質疑応答、助言
12:10-12:25 まとめ
12:25-12:30 閉会挨拶、連絡事項等

※実践研究発表：15分
※質疑応答、助言：5分



分科会一覧

第1 分科会

『コロナ禍における施設経営の“Resilience”について』

これまでの常識が必ずしも常識で無くなり、これまでの習慣ややり方、生活様式まで含めているいろいろなものを変えていく、変わっていく時代にマッチした施設経営のスタイルを考える。

- LIFEの活用
- 生産性向上
- コロナ禍の検証
- 他施設への応援体制
- BCP(感染症・災害)の取り組み
- ICT環境整備
- 大規模災害の備え

第2 分科会

『コロナ禍における施設看護・栄養の“Resilience”について』

感染症対策の第一線に立たされた栄養士・看護職が果たした役割は何であったか。クラスターや濃厚接触者とうどう関わり、何を果たしたのか振り返る。

- 感染拡大防止対策の取り組み
- コロナ禍での看取り・認知症ケアについて
- 楽しむ食事と栄養

第3 分科会

『コロナ禍における施設ケアの“Resilience”について』

コロナ禍にあって施設ケアはどう変化を求められたのか。また、施設ケアは変わったのか？
コロナ禍で導入促進が図られた非接触型機器・ICT機器を今後どう活用していくのか。介護現場の今後に占う。

- 認知症ケア
- コロナ禍での看取り介護
- 施設感染者発生時の対応
- 多職種連携（チームケア）
- 入所者・利用者へのコロナ時の対応
- 地域貢献・共生社会について

第4 分科会

『コロナ禍における人材確保へ向けての“Resilience”について』

医療従事者に限らず、介護職も社会を支える仕事（レジデンシャルワーカー）として注目を集めたが、その輝きは今後どうなるのか。また、コロナ禍で最も大きな影響を受けたのが外国人材と働き方である。人材確保はどう復活するのか。

- 介護の魅力発信について
- アクティブシニア層の活用
- 外国人材の受け入れ・育成について
- 働き方改革・職場環境づくりについて

第5 分科会

『コロナ禍における在宅サービスの“Resilience”について』

次代の在宅系サービスのミッションは、いかにあるべきか。地域で安心して利用できる地域包括ケアシステムの実現に向けて事業所が果たす役割を探る。

- コロナ禍でのデイサービス
- コロナ禍での感染拡大防止策
- 社会参加支援

第6 分科会

『コロナ禍における養護・軽費・ケアハウスの“Resilience”について』

After CORONAで養護・軽費・ケアハウスの施設経営はどう変わるのか。従来の施設運営でなにをどう変えていくべきか。

- 措置控え
- 養護・軽費・ケアハウス処遇改善について
- 経営の効率化に向けて
- 職員負担軽減について